

再生可能エネルギー

をフル活用へ

いざ挑戦!



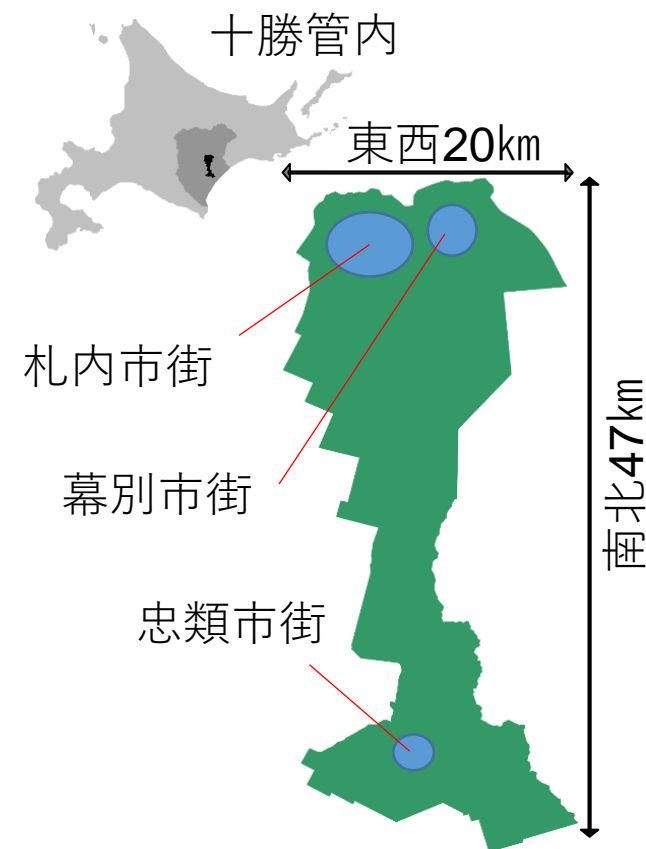
シンボルマーク



# 幕別町の概要

- 人口：25,778人、世帯数：12,615世帯（R 5.3）
- 基幹産業：農業
  - ・ 畑作：小麦、大豆、小豆、馬鈴薯、甜菜、レタス、大根、長いも 等  
（479戸、平均耕地面積41.3 h a）
  - ・ 酪農：乳用牛17,055頭（90戸）、他 肉用牛、豚 等  
→ 忠類地域は酪農が主体、幕別・札内地域は畑作・野菜が主体だが  
農村部に比較的大きな酪農家が点在
- 交通網が発達
  - ・ J R 根室本線 帯広駅⇔札内駅 5 分、帯広駅⇔幕別駅15分
  - ・ 国道38号線 帯広～札内 5 分、帯広～幕別20分
  - ・ 高規格道路 忠類インター
  - ・ 帯広空港まで30分
- 十勝で唯一、平成の合併をした町（幕別町+忠類村）  
→ 市街地が3つに分かれている
- パークゴルフ発祥の町（世界大会も開催）
- 地中に眠る太古のロマン「ナウマン象全身化石骨」発掘の町

《マスコット》  
パオくん  
クマゲラくん



## 民間企業に期待すること

- 持続可能な再エネ活用システムの構築を一緒に実現してほしい

# 未来を描く上での課題

➤ 太陽光・太陽熱・バイオマス（家畜ふん尿、生ごみ等）を**効果的かつ持続的に活用したシステム化**が課題。

① 系統接続の問題から**バイオマスプラント**では売電ではなく、**発電した電力**や（**液化**）**バイオメタンガス**を活用する**地産地消の仕組みづくり**。

② 現状FIT売電されている太陽光発電の地域内活用の仕組みづくり。

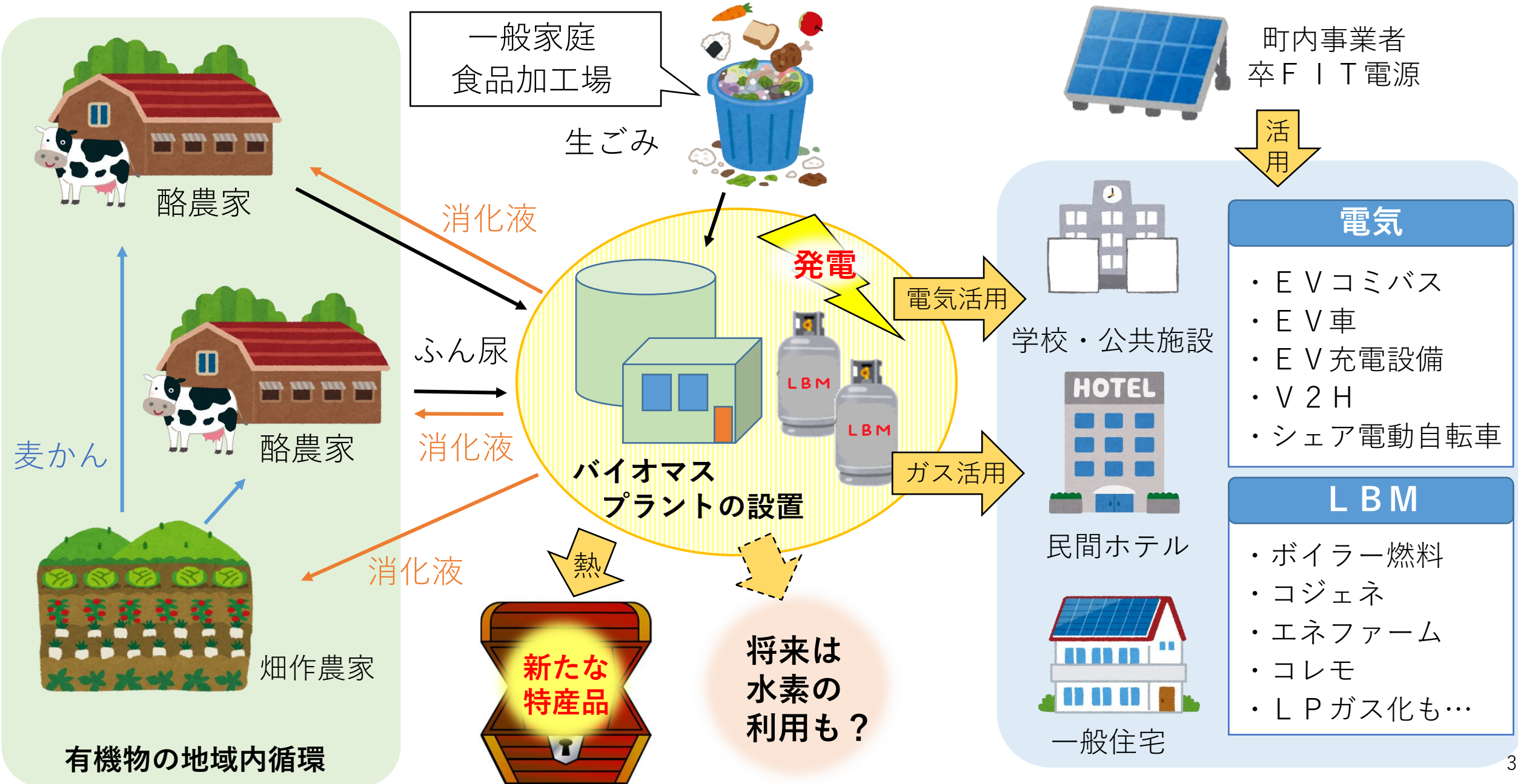
➤ システム構築の際、技術的な裏付けのある採算面の試算をいかにするかが課題。

➤ アンケート結果から、町民は脱炭素の認知度は高いが、行動には移っていない傾向がみられ、今後いかに行動変容につなげ、町民を巻き込んだ取り組みとしていけるかが課題。

【幕別町再エネポテンシャル（REPOSより）】

エネルギー種類	導入ポテンシャル	単位	適用性	概要	
太陽光	建物系	177	MW	○	住宅屋根上のPPAモデル導入など
	土地系	7,073	MW	◎	公共施設の更新に合わせた導入の可能性 農業型ソーラーシェアリングによる農業との共存・共栄
風力	陸上	551	MW	○	ポテンシャルはあるものの設置場所の精査が必要
	洋上	-			
中小水力	河川	0.23	MW	△	地域内に小規模のポテンシャルあり
バイオマス	木質	-	MW	○	森林経営による間伐計画と合わせて、一定の木材は生産できる可能性あり 農業残渣（小麦殻など）のバイオマス活用を検討
	廃棄物	-	MW	△	ごみは周辺市町村で共同処理しており、くりりんセンター（帯広市）にて焼却しているため利用は困難であるが、生ごみについて別途回収することによる利用を検討
	家畜	-	MW	◎	畜産・酪農によるふん尿処理が課題となっており、一定量のふん尿は確保できる
地熱	0.07	MW	×	札内地区において一部温泉熱利用実績もあり（老人福祉センターでの暖房等）	
<b>再エネ（電気）合計</b>	<b>10,727,047</b>	<b>MWh/年</b>			
太陽熱	131,648	GJ/年	○	寒冷地のため、一定のニーズあり	
地中熱	1,301,663	GJ/年	○	各種廃熱利用も含めた導入可能性を検討	
<b>再エネ（熱）合計</b>	<b>1,433,311</b>	<b>GJ/年</b>			

# 描く未来 幕別町のエネルギー利用



# 実現するため企業に期待したいこと

## ① バイオマスプラントを最大限活用した事業の構築・運営

家畜ふん尿や生ごみを原料としたバイオマスプラントで発電するほか、バイオメタンガスを精製（将来的には水素の利用）し、地域内で消費することで、**エネルギーの地産地消と経済の域内循環を実現させたい**。持続可能な事業となるよう、技術面も含めてその方策や仕組みづくりへの支援と、事業開始後の事業運営への支援をお願いしたい。

## ② F I T電源として域外で消費されている太陽光発電の域内活用

民間で太陽光発電設備を設置し、現状F I T電源として約5万MWhもの電力が域外で消費されている。今後、**卒F I Tを迎える電源を地域内で活用したい**と考えている。手法として地域新電力会社の設立が考えられるが、ビジネスモデルを構築できるかが課題である。持続可能な地域内での活用方法についてアイデアを出して欲しい。

## ③ 町全体での脱炭素化システムの構築

上記①や②のほか、脱炭素化とレジリエンス強化の観点から公共施設における太陽光オンサイトP P Aの実施やソーラーカーポート・E V充電設備の設置を図ると共に、一般住宅への蓄電池と一体での太陽光発電設備導入やE VとV 2 H一体での導入等を検討している。

これらを含め、**温室効果ガス削減目標**（2013年度比46%削減、2050年カーボンニュートラル実現）**を達成できるような町全体での脱炭素化システムの構築**について**一緒に考えて欲しい**。